

平成24年度G-COE RA 募集要項

◇募集するG-COE RAについて

千葉大学における学術研究の一層の推進に資する研究支援体制の充実・強化並びに若手研究者の養成・確保を促進するため、千葉大学グローバルCOEプログラム「免疫システム統御治療学の国際教育研究拠点」(以下、本プログラム)が実施する研究プロジェクト等に優秀な大学院生を参画させ、研究業務を委嘱するものであり、これにより、研究活動の効果的な促進と若手研究者としての研究遂行能力の育成を図る。

委嘱期間 : 平成24年4月から平成25年3月まで

委嘱人数 : 25名(予定)

業務委嘱料 : 月額10~20万円(予定)

研究経費 : 年額30万円~50万円(予定)

※平成24年度グローバルCOEの予算の都合により委嘱人数、業務委嘱料が変更となる場合があります。

※研究経費は千葉大学グローバルCOEプログラム特別研究奨励費として交付(要申請・審査)する予定です。

◇申請資格

次の1から3のすべてに該当する者であること。

1. 大学院医学薬学府 4年博士課程または、後期3年博士課程に在籍する者。
なお、平成23年度に千葉大学の修士課程修了見込者等で、平成24年度に大学院医学薬学府 4年博士課程または、後期3年博士課程に入学予定の者は、申請前にG-COE事務室にご相談ください。
2. 本プログラムでの研究内容(後記参照)に関連する研究テーマに従事できる者。
3. 優れた論文等の成果が特に期待でき、大学院修了後は海外留学や教員(助教)としての採用など、研究者として将来が嘱望される^{として}推薦を受ける者。

※ 申請大学院生の指導教員は必ずしも本プログラムの事業推進担当者である必要はない。

◇申請にあたっての留意事項

【申請等の制限】

- ・千葉大学職員として勤務している者(医員、研修医等 内定を含む)は申請できない。
- ・他の類似するサポート(日本学術振興会特別研究員、国費留学生等)を受けている者(内定を含む)は申請できない。
- ・他のRA, TAとは兼務できない。既に他のTA, RAに委嘱された者が本委嘱候補者となった場合、他のRA, TAを辞退すること。
- ・委嘱は、単年度毎に行い通算3年を限度とする。
- ・G-COE RAに採用された場合、月額約10~20万円の委嘱料が支払われるため、各種奨学金や扶養関係の手続き等について留意すること。

【選考組織等】

選考は本プログラムの事業推進担当で組織する研究進捗評価推進委員会で行い、平成 24 年 2 月に決定する。

◇申請書類, 締切, 提出先

1. G-COE RA 研究業務計画書
2. 研究歴
3. 指導教員の推薦書 (様式任意)

※ 推薦書については、申請資格 2 及び 3 に関する所見を記載すること。

また、同じ指導教員から複数の推薦がある場合は、推薦書内に推薦順位を記載すること。

申請締切 : 平成 24 年 1 月 13 日 (金) 17 時

提出部数 : 5 部 (正本 1 部, 写し 4 部) ※推薦書は 1 部

書類提出先 : G-COE 事務室 (医学部本館 1 階)

◇委嘱後について

- ・ G-COE RA として委嘱された者は、本プログラムの一環として研究を行ない「千葉大学リサーチ・アシスタント (RA) 実施要項」に定められた書類を提出する。
- ・ 本プログラムの拠点リーダーの指示により関連するシンポジウム、ワークショップ、講義等への出席、報告書作成等を行う。
- ・ 委嘱する研究の実施費用として「千葉大学グローバル COE プログラム特別研究奨励費」を申請できる。

◇G-COE RA 候補者を推薦する先生へ

- ・ 推薦した大学院生が G-COE RA として委嘱された場合は、指導教員として、責任を持って指導してください。
- ・ 委嘱された大学院生の所属研究室の教員 (教授、准教授等) には、アドバイザー (G-COE RA に委嘱された他の大学院生のアドバイスも含む) として進捗会議、報告会等への協力をお願いすることがあります。

◇問い合わせ先

研究内容に関して :	大学院医学研究院	教授	中山俊憲	内線 5504
	大学院薬学研究院	教授	堀江利治	内線 7736
申請書類に関して :	G-COE 事務室		中里貴司	内線 5015

◇本プログラムの研究概要（参考）

名 称 : 免疫システム統御治療学の国際教育研究拠点

Global Center for Education and Research in Immune System Regulation and Treatment

目 的 :

アレルギー疾患は国民の3人に1人が罹患しているにもかかわらず、対症療法がほとんどで未だに根治療法が開発されていない。

癌は国民の3人に1人の死亡原因であり、患者の高齢化に伴い良好なQOLの得られる低侵襲治療法が開発が求められている。

アレルギー疾患や癌は、生体内で巧妙に調節されている免疫システムのアンバランスや破綻によって発症する、という共通の病因論的特徴があり、これらの疾患の発症機序に関してこれまでに免疫学は分子・遺伝子レベルでの膨大な研究成果をあげてきた。

その結果、「免疫システム統御」という視点に立脚した疾患治療法を開発できる段階に至っている。

そこで、大学院医学薬学府先端生命科学専攻を中心として、世界でも例をみない免疫システム統御による治療学の卓越した国際教育研究拠点を形成し、難治免疫関連疾患（アレルギー、癌、血管炎、動脈硬化など）を対象にした治療学研究を推進する。

これらの研究活動を通して、免疫システム統御と免疫治療に関する統合的な知識と方法論を修得し、

- ① 新たな視点から独創的な研究を遂行する能力、
- ② アレルギー総合臨床治療研究や領域横断的な癌臨床治療研究を行いうる能力、
- ③ 国際舞台で活躍する能力

を持つ、治療学研究を行う若手研究者の育成を目指す。

研究内容 :

- ① 免疫システムの統御機構の研究、疾患ゲノミクス、ファーマコゲノミクスや薬物動態学研究等の基礎研究を横糸に、縦糸として最新の研究成果（エビデンス）に基づいた、
- ② 免疫システム統御によるアレルギー予防・治療法の開発研究、
- ③ 癌の免疫細胞療法の開発研究、
- ④ 免疫システムの関与する心血管疾患の発症機序と制御法に関する研究を推進し、新しい治療学分野を樹立する。